

科 目 名	単位数	コース	学年	履修について
美容総合技術	1	ヘアアート学科	2 年生	必修

担当教員	職名 専任講師 氏名 原永 由貴
教科に係る実務経験等	
使用教材	日本語ワープロ検定問題集、文書デザイン検定問題集、情報処理検定問題集
副教材等	

講義の概要
社会人として最低限必要なWord・Excelの技能を身に付けさせる。
授業の到達目標及びテーマ
1. Wordソフトを使用し、ビジネス文書の形式や構成要素を理解し、社外文書や社内文書が作成できる。 2. Wordソフトを使用し、図形・画像挿入を使いこなし、チラシやポスター作成ができる。 3. Excelソフトを使用し正確なデータ入力、必要に応じた関数を使用し、情報処理能力を身につける。

授業計画	
4 月	ビジネス文書の基礎、文字書体、文字飾り、表の加工
5 月	体裁処理、ドロップキャップ、ワードアート
6 月	画像挿入、図形挿入・加工、ページ罫線
7 月	数値入力、端末処理、合計、平均
9 月	オートフィル、表検索、 I F 関数、グラフ挿入

授業外学習	
考査出題方針	日本情報処理検定協会各種検定に準ずる問題とする。
課題・提出物	夏期課題及び作成物等
評価の観点	①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③技能 ④知識・理解 の4観点を総合的に評価する。
評価方法	各考査の成績、検定受験状況、出席状況、学習活動参加状況等で評価する。
評価について	別途指示

科 目 名	単位数	コース	学年	履修について
美容総合技術	1	ヘアアート学科	1年生	選択

担当教員	職名 専任講師 氏名 小林 妃佳梨
教科に係る実務経験等	
使用教材	日本語ワープロ検定問題集、文書デザイン検定問題集、情報処理検定問題集
副教材等	

講義の概要
社会人として最低限必要なWord・Excelの技能を身に付けさせる。
授業の到達目標及びテーマ
1. Wordソフトを使用し、ビジネス文書の形式や構成要素を理解し、社外文書や社内文書が作成できる。 2. Wordソフトを使用し、図形・画像挿入を使いこなし、チラシやポスター作成ができる。 3. Excelソフトを使用し正確なデータ入力、必要に応じた関数を使用し、情報処理能力を身につける。

授業計画	
10月	ビジネス文書の基礎、文字書体、文字飾り、表の加工
11月	体裁処理、ドロップキャップ、ワードアート
12月	画像挿入、図形挿入・加工、ページ罫線
1月	数値入力、端末処理、合計、平均
2月	オートフィル、表検索、I F 関数、グラフ挿入
3月	まとめ

授業外学習	
考査出題方針	日本情報処理検定協会各種検定に準ずる問題とする。
課題・提出物	夏期課題及び作成物等
評価の観点	①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③技能 ④知識・理解 の4観点を総合的に評価する。
評価方法	各考査の成績、検定受験状況、出席状況、学習活動参加状況等で評価する。
評価について	別途指示

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
衛生管理	1	ヘアーアート学科	2 年生	必修

担当教員	職名 非常勤 氏名 町園 清和
教科に係る実務経験等	薬品・薬剤会社勤務歴 10 年以上（獣医師免許）
使用教材	日本理容美容教育センター 衛生管理教科書
副教材等	

講義の概要
教科書に沿った講義
授業の到達目標及びテーマ
実践面での重要な項目、及び基礎知識としての項目を理解させ、 国家試験準備としてのキーワードをチェックする

授業計画	
4 月	衛生管理技術
5 月	衛生管理技術小テスト
6 月	実践例
7 月	実践例・小テスト
9 月	実践例、総復習
10月	
11月	
12月	
1 月	
2 月	
3 月	

授業外学習	
考査出題方針	小テスト・国家試験・添削など
課題・提出物	
評価の観点	期末テストの成績、授業中の態度
評価方法	成績を 80 % 授業態度を 20 % で評価
評価について	別途指示

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
関係法規・制度	1	ヘアアート学科	1年生	必修

担当教員	職名 非常勤講師 氏名 濱田 利安 (県立高校教諭歴20年以上(社会教諭免許))
教科に係る実務経験等	
使用教材	関係法規・制度(日本理容美容教育センター)
副教材等	美容師法関係法令集

講義の概要
①美容師になるために必要な関係法規と制度 ②美容師を生業とするにおいて周知すべき関連法規 ⇒上記①②についての細目は下記「授業計画」の一覧のとおり ※
授業の到達目標及びテーマ
①美容師試験関係法規・制度に関する筆記試験に對しうる学力を習得する ②美容師を生業とするに必要な法的知識を習得する

授業計画	
4月	第1章 第1節法制度の概要 第1節 社会生活における法の役割
5月	第2節 法の形式
6月	第3節 衛生法規の概要 第4節 理容師法美容師法と附属法令
7月	第2章 衛生行政概要 第1節 第2節 衛生行政の分類と生活衛生行政の内容
9月	第2章 衛生行政の概要 衛生行政を担う行政機関
10月	第3章 理容師法・美容師法 第1節 用語の定義 第3節理容師・美容師に関する規定
11月	第4節 施設に関する規定 第5節立ち入り検査と環境衛生監視員
12月	第6節 違反者に対する行政処分
1月	第7節罰則
2月	第4章 関連法規 (1) 理容業・美容業の運営に関連する法律 (2) 理容業・美容業の衛生に関連する法律
3月	(3) 理容業・美容業の消費者保護に関する法律

授業外学習	定期的に美容師試験問題(ワークブック問題)演習を実施する
考査出題方針	美容師試験過去問題を定期試験問題として活用する
課題・提出物	特になし
評価の観点	①履修時間(正規の次数一欠席数)②授業態度③定期考査の得点
評価方法	上記評価の観点を基準に優良可の三ランクで評価する
評価について	学生に左記の評価基準を周知した(①出席次数②授業態度③定期考査点数)

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
衛生管理	2	ヘアアート学科	1 年生	必修

担当教員	職名 非常勤 氏名 町園 清和
教科に係る実務経験等	薬品・薬剤会社勤務歴 10 年以上（獣医師免許）
使用教材	日本理容美容教育センター 衛生管理教科書
副教材等	

講義の概要
教科書に沿った講義
授業の到達目標及びテーマ
実践面での重要な項目、及び基礎知識としての項目を理解させ、 国家試験準備としてのキーワードをチェックする

授業計画	
4 月	公衆衛生
5 月	公衆衛生
6 月	公衆・環境衛生
7 月	環境衛生
9 月	環境衛生・小テスト
10月	感染症
11月	感染症
12月	感染症
1 月	感染症
2 月	感染症・小テスト
3 月	衛生管理技術

授業外学習	期末試験前に問題配布
考査出題方針	小テスト・国家試験・添削など
課題・提出物	小テスト（各章終了時）
評価の観点	期末テストの成績、授業中の態度
評価方法	成績を 80 % 授業態度を 20 % で評価
評価について	別途指示

シラバス

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
保健	1	ヘアアート学科	2年生	必修

担当教員	職名 非常勤講師 氏名 長野 慎治
教科に係る実務経験等	非常勤講師として実務経験20年以上（薬剤師）
使用教材	公益社団法人日本理容美容教育センター出版（規定）
副教材等	国家試験過去問

講義の概要
国家試験出題のレベルまで、内容を習熟し、インプット学習をする 過去の国家試験問題をアウトプットし、本試験に合格できるまでの実力をつける
授業の到達目標及びテーマ
・美容師国家試験に合格程度の実力を身に付ける。 ・美容業界での実務に関連する分野の情報を獲得する（化粧品、ヘアケア、手入れなど）

授業計画	
4月	第5章「皮膚の保健」継続する。第6章「皮膚疾患」の学習
5月	第1章・第2章・第3章・第4章の復習をし、過去の国家試験の問題を練習する
6月	第5章・第6章・第7章・第8章の復習をし、過去の国家試験の問題を練習する
7月	第2編「皮膚科学」の復習をし、過去の国家試験の問題を練習する。
9月	前期末試験の実施（全範囲）の復習と過去の国家試験の問題を練習する。
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

授業外学習	期末試験前に問題を配布。自宅で解くことで、復習とアウトプット力をつくる
考査出題方針	国家試験相当の問題を中心に行う。
課題・提出物	各章復習終了時に対象力所の国家試験過去問を解く
評価の観点	国家試験の合格を最大目標にあげているため、問題の把握力・解答時間の配分・誤解答の修正を2年次には重点に置いている。
評価方法	定期期末考査の成績および出欠、授業態度
評価について	別途指示あり

シラバス

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
保健	2	ヘアーアート学科	1年生	必修

担当教員	職名 非常勤講師 氏名 長野 慎治
教科に係る実務経験等	非常勤講師として実務経験20年以上（薬剤師）
使用教材	公益社団法人日本理容美容教育センター出版（規定）
副教材等	「美容の皮膚科学」、「ヘアーの手入れについて」

講義の概要
国家試験出題のレベルまで、内容を習熟し、インプット学習をする 過去の国家試験問題をアウトプットし、本試験に対応できるまでの応用力をつける
授業の到達目標及びテーマ
・美容師国家試験に合格程度の実力を身に付ける。 ・美容業界での実務に関連する分野の情報を獲得する（化粧品、ヘアケア、手入れなど）

授業計画	
4月	第1章人体各部の名称を知る。第2章骨格器の名前、その働きを知る。
5月	第3章筋肉の名称と顔の表情について。第4章神経の分類と脳、自律神経について
6月	第5章感覚器（目・耳など）の構造について。第6章血液と免疫について
7月	第7章循環器系について
9月	第1章から7章までの復習と前期末試験。第8章消化器、第9章消化器系について
10月	第1章皮膚の構造について、3層構造と各層を構成する細胞について確認
11月	第2章皮膚付属器官の構造と働きについて（毛、爪、脂腺、汗腺、立毛筋）
12月	第3章皮膚の循環器と神経系について
1月	第4章皮膚の生理機能について、さまざまな働きを知る
2月	第8章から第4章までの復習と後期末試験。第5章皮膚と付属器官の保健について
3月	第5章の続きで、手入れ方法の具体的な内容について

授業外学習	期末試験前に問題を配布。自宅で解くことで、復習とアウトプット力をつくる
考査出題方針	授業での内容を中心に、国家試験レベルも入れ込む。
課題・提出物	各章ごとに国家試験の過去問を解く
評価の観点	国家試験の合格を最大目標にあげているため、文章の理解力・推理力・問題の把握力を1年次には重点を置く。
評価方法	定期期末考査の成績および出欠、授業態度
評価について	別途指示あり

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
美容技術理論	3	ヘアアート学科	2年生	必修

担当教員	職名 専任講師 氏名 田中 裕香
教科に係る実務経験等	美容師実務経験4年以上、養成施設教員資格認定研修会修了
使用教材	「美容技術理論2」（公益社団法人 日本理容美容教育センター）
副教材等	「ワークブック」（公益社団法人 日本理容美容教育センター）

講義の概要
美容技術の知識を深め、美容技術者としての心構えと手技を習得させる。 授業は、教科書に基づく講義と振り返りテストを組み合わせた形式で実施する。
授業の到達目標及びテーマ
1. 美容技術の概論と歴史を理解する。 2. 美容の道具の名称と使用目的を理解する。 3. 美容技術の手技と手順を深く理解する。 4. 美容概論のすべてを把握し、美容師国家試験の過去問題の文章を理解し、確実に解けるようになる。

授業計画	
4月	日本髪のかぶり技術の手順、かつらのかぶり方・外し方、手入れ法までを理解する。
5月	着付理論を通し、着付方、着物と帯、ウエディングドレスについて深く理解する。
6月	エステティック概論とエステティシヤンの心得、皮膚構造について理解する。
7月	種々のネイル技術を理解し、道具の使用目的、手技と手順について深く理解する。
9月	スキンケア及びメイク技術の手技と手順及び化粧品について深く理解する。
10月	美容におけるマッサージ理論・まつ毛エクステンションの基本手技及び手順を深く
11月	エステティック概論とエステティシヤンの心得、皮膚構造について理解する。
12月	国試対策に取り組む。より多くの問題を解き、問題形式に慣れる。
1月	国試対策に取り組む。出題された問題を深く理解し、正解を導く力を強化する。
2月	国試過去問題を反復的に繰り返し解き、文章の正誤の理解を深める。
3月	最終問題の正解率を上げ、自信を持って国試受験に臨む。

授業外学習	講義内容・教科書の復習を課題とし、次回の振り返りテストに反映させる。
考査出題方針	講義内容及び振り返りテストを中心に、指定された範囲からも出題する。
課題・提出物	前期・後期2回のノート提出
評価の観点	①授業態度②思考・発言③知識・理解度④ノート提出（内容確認）の4 観点を総合的に評価する。
評価方法	定期考査の成績及び授業態度・提出物内容等で評価する。
評価について	別途指示

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
美容実習	20	美容実習	2年生	必修

担当教員	職名 専任講師 氏名 田中 裕香 福永 望美
教科に係る実務経験等	美容師実務経験4年以上 養成施設教員資格認定研修会修了
使用教材	美容実習技術に関わる教材
副教材等	

講義の概要
美容師国家試験に合格できる技術と知識を定着させる 美容技術向上を目的とし国家試験課題を反復形式で実施し、完成度を高める
授業の到達目標及びテーマ
①美容師国家試験に合格できるように知識を深める ②目標を掲げ、達成意識の強化 ③自主練習を行い技術向上に努める

授業計画	
4月	ワイディング技術の振り返りとオールウェーブ技術の習得
5月	オールウェーブ技術の全頭完成と構成の理解
6月	オールウェーブ技術のタイム測定を行いながらワイディング技術維持を図る
7月	オールウェーブ技術目標タイム（30分）
9月	オールウェーブ技術とワイディング技術の復習
10月	目標タイム：オールウェーブ技術（25分）、ワインディング技術(20分)
11月	カット技術の理解と技術習得と第二課題の復習と構成の再確認
12月	タイム測定：カット技術(20分)、第二課題（審査時間内）
1月	美容師国家試験実技合格ラインまでの仕上げ、個別指導
2月	美容師国家試験実技試験受験、筆記試験対策
3月	美容師国家試験筆記試験受験

授業外学習	長期休暇中でも目標を掲げ自宅で技術向上を図る
考査出題方針	個別で課題を出題し、技術及び知識向上を図る
課題・提出物	課題出題
評価の観点	①技術向上 ②知識・理解 ③美容師国家試験受験の実施 3観点を総合的に評価する
評価方法	個別指導、定期的なテストの実施
評価について	別途指示（美容師国家試験合格）

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
美容技術理論	2	ヘアアート学科	1 年生	必修

担当教員	職名 専任講師 氏名 田中 裕香
教科に係る実務経験等	美容師実務経験 4 年以上、養成施設教員資格認定研修会修了
使用教材	「美容技術理論 1」（公益社団法人 日本理容美容教育センター）
副教材等	「ワークブック」（公益社団法人 日本理容美容教育センター）

講義の概要
美容技術の知識を深め、美容技術者としての心構えと手技を習得させる。 授業は、教科書に基づく講義と振り返りテストを組み合わせた形式で実施する。
授業の到達目標及びテーマ
1. 美容の用具の名称及び各部の名称とその働きを学び、使用目的・使用方法を理解する。 2. 美容技術の目的、手技と手順を深く理解する。 3. 美容施術に使用する化粧品・薬剤の種類について深く理解し、お客様の頭皮・頭髮の性状に適したものを選択するための知識を深める。

授業計画	
4月	美容理論と美容技術について深く理解する。
5月	人体各部の名称、美容技術における用具の種類と名称、使用目的を深く理解する。
6月	シャンプーの目的、シャンプー剤の特長を理解し性状に合ったものを選択できる。
7月	リンス剤・トリートメント剤の特長、スカルプトリートメント剤の特長と手技を深く理解する。
9月	ヘアデザインにおける錯視、デザインの原理を深く理解する。
10月	ヘアカッティングの目的と基礎を理解し、シザーズカット技法を深く理解する。
11月	レザーによるカット技法を深く理解する。
12月	パーマネントウェーブの歴史と理論、パーマ剤の種類と用途を深く理解する。
1月	パーマネントウェーブ技術と手順を深く理解する。
2月	ヘアカーリングの基礎・基本について深く理解する。
3月	その他、種々のヘアセッティングの基礎・基本、技法を深く理解する。

授業外学習	講義内容・教科書の復習を課題とし、次回の振り返りテストに反映させる。
考査出題方針	講義内容及び振り返りテストを中心に、指定された範囲からも出題する。
課題・提出物	前期・後期 2 回のノート提出
評価の観点	①授業態度②思考・発言③知識・理解度④ノート提出（内容確認）の 4 観点を総合的に評価する。
評価方法	定期考査の成績及び授業態度・提出物内容等で評価する。
評価について	別途指示

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
美容総合技術	5	ヘアアート学科	2 年生	選択

担当教員	職名 専任講師 氏名 宇都 順子
教科に係る実務経験等	公益社団法人 日本理容美容教育センター 過去問題
使用教材	実技：ウィッグ等 筆記：教科書 プリント等
副教材等	

講義の概要
ヘアショー実施のための課題活動を行う（ヘアアレンジ メイク イベント構成等） 1 年次の復習及びタイム測定を行う。国家試験に合格できる技術まで反復する。筆記では、教科書の熟読及び過去問題等を使用して合格ラインまで勉強し続ける。
授業の到達目標及びテーマ
卒業してから美容室で働くときに少しでもできる仕事があり、サロンの戦力となれるような人材育成

授業計画	
4 月	ヘアアレンジ及びメイク研究
5 月	ヘアメイク完成　ヘアショーの構成を考える
6 月	ヘアメイク及び構成研究
7 月	
9 月	1 年生からの実技復習
10月	ヘアショー実施
11月	国家試験課題発表　実技復習　カットの習得
12月	カットの習得
1 月	国家試験合格ラインに達する
2 月	美容師国家試験実技実施　美容師国家試験筆記対策、教科書熟読、プリント
3 月	美容師国家試験筆記実施

授業外学習	イメージや構成を自宅で考える / プリント
考査出題方針	技術が中心、授業内で教わった内容チェック
課題・提出物	イメージデッサンや画像、衣装や小物類 / 訂正ノート
評価の観点	見た目のバランス（仕上がり） / テスト実施（毎日）
評価方法	授業中の意欲、技術の上手さ、丁寧さ、努力
評価について	美容師国家試験合格100%

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
美容総合技術	2	ヘアアート学科	2年生	選択

担当教員	職名 非常勤講師 氏名 泉 健太郎
教科に係る実務経験等	美容師実務歴9年以上（有限会社アミューズ代表取締役）
使用教材	ハサミ パーマ道具 カラー薬剤 ドライヤー等
副教材等	

講義の概要
カット、パーマ、カラーや接客、シャンプー、マッサージ等美容師としてサロンワークできるようにするための基本を教える
授業の到達目標及びテーマ
卒業してから美容室で働くときに少しでもできる仕事があり、サロンの戦力となれるような人材育成

授業計画	
4月	パーマの基本、巻き方、薬剤について
5月	シャンプー&ブロー
6月	クリエイティブ / ショー用ヘアメイク
7月	ヘアショー用ヘアメイク
9月	フォトシューティング用ヘアメイク
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

授業外学習	ブローやシャンプー等、テストのための自主レッスン
考査出題方針	技術が中心、授業内で教わった内容チェック
課題・提出物	
評価の観点	見た目のバランス（仕上がり）、ツヤ、手触り
評価方法	授業中の意欲、技術の上手さ、丁寧さ、努力
評価について	

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
運営管理	1	ヘアアート学科	1 年生	必修

担当教員	職名 専任講師 氏名 宇都 順子
教科に係る実務経験等	美容師実務経験 9 年以上、養成施設教員資格認定研修会修了
使用教材	「運営管理」（公益社団法人 日本理容美容教育センター）
副教材等	「ワークブック」（公益社団法人 日本理容美容教育センター）

講義の概要
サービス業界における顧客満足の実現、企業の発展に取り組む知識や技能を学び習得させる。授業は、教科書に基づく講義と振り返りテストを組み合わせた形式で実施する。
授業の到達目標及びテーマ
1. 経営者としての資金管理の重要性、顧客が企業に求める価値について理解を深める。 2. 人という資源、よい接客の重要性について理解を深める。 3. 雇用される側の健康管理と社会人としての責任について理解を深める。

授業計画	
4 月	
5 月	
6 月	
7 月	
9 月	
10月	経営者としての経営の重要性、美容界のサービスの在り方について深く考える。
11月	資金管理、人という資源、人の能力を高める方法について深く考える。
12月	健康管理の基礎、作業環境の充実、社会人としての責任について理解を深める。
1 月	顧客が求める価値、マーケティング、コミュニケーションについて理解を深める。
2 月	接客の実践、接客におけるトラブルの対応、対策と対処について理解を深める。
3 月	経営とマネジメント、経営者と従業員の立場を振り返り、国試対策に臨む。

授業外学習	講義内容・教科書の復習を課題とし、次回の振り返りテストに反映させる。
考査出題方針	講義内容及び振り返りテストを中心に、指定された範囲からも出題する。
課題・提出物	定期的にノート提出
評価の観点	①授業態度②思考・発言③知識・理解度④ノート提出（内容確認）の 4 観点を総合的に評価する。
評価方法	定期考査の成績及び授業態度・提出物内容等で評価する。
評価について	別途指示

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
美容実習	10	ヘアアート学科	1年生	必修

担当教員	職名 専任講師 氏名 村山さおり 宇都 順子
教科に係る実務経験等	養成施設教員資格認定研修会修了
使用教材	美容実習技術に関わる教材
副教材等	

講義の概要
美容師国家試験に合格できる技術と知識を定着させる 授業は、ワインディング技術向上を目的とし反復形式で実施する
授業の到達目標及びテーマ
1. 美容道具の使用方法及び基本的知識の理解 2. ブロッキング、ワインディング技術のタイム測定の実施と完成度を高める 3. タイム内に課題を仕上げる ワインディング20分以内

授業計画	
4月	美容道具の知識を深める
5月	ブロッキング練習及び上巻き、下巻きの練習
6月	全頭を完成させ、構成の理解
7月	部分的にタイム測定実施し習熟度を高める
9月	全頭のタイム測定及び構成の復習と強化
10月	目標タイム（30分）
11月	目標タイム(27分)
12月	目標タイム（25分）、自宅学習で目標タイム（23分）
1月	目標タイム(23分)、構成の再確認
2月	目標タイム（20分）、構成の再確認
3月	目標タイム（20分）、オールウェーブ用ウィッグの下処理を行う

授業外学習	長期休暇中でも目標タイムを掲げ自宅で技術向上を図る
考査出題方針	特になし
課題・提出物	特になし
評価の観点	①関心・意欲・態度 ②技術向上 ③目標達成 3観点を総合的に評価する
評価方法	定期的にテストを実施
評価について	別途指示

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
美容総合技術	3	ヘアアート学科	1 年生	必修

担当教員	職名 非常勤講師 氏名 泉 健太郎
教科に係る実務経験等	美容師実務歴9年以上（有限会社アミューズ代表取締役）
使用教材	ハサミ パーマ道具 カラー薬剤 ドライヤー等
副教材等	

講義の概要
カット、パーマ、カラーや接客、シャンプー、マッサージ等美容師としてサロンワークできるようにするための基本を教える
授業の到達目標及びテーマ
卒業してから美容室で働くときに少しでもできる仕事があり、サロンの戦力となれるような人材育成

授業計画	
4 月	サロンワークの基礎座学
5 月	マツ毛パーマ
6 月	着付け カット
7 月	メイク
9 月	マッサージ座学
10月	流し、シャンプーでマッサージ・理論
11月	スパ、マッサージ
12月	カラーの基本
1 月	ヘアアレンジ（トレンド）
2 月	メイク（トレンド）
3 月	ヘアセット（アップスタイル）

授業外学習	ブローやシャンプー等、テストのための自主レッスン
考査出題方針	技術が中心、授業内で教わった内容チェック
課題・提出物	
評価の観点	見た目のバランス（仕上がり）、ツヤ、手触り
評価方法	授業中の意欲、技術の上手さ、丁寧さ、努力
評価について	

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
美容総合技術	1	ヘアアート学科	1年生	選択

担当教員	職名 非常勤講師 氏名 堂原 典子
教科に係る実務経験等	フリーガリストとして専門学校非常勤講師歴10年以上
使用教材	公式テキストモジュール1 パーソナルカラー配色カード PCCS新配色カード199a モジュール1 配色ワークブック
副教材等	PCCS色相環&トーン掛図 ドレープ

講義の概要
パーソナルカラーの特徴と色彩の基礎（色彩効果、カラーシステム、配色等） 理解を深めるため、ワークブックやカラーカード等で演習を行う。
授業の到達目標及びテーマ
色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1の合格を目指す。 色を見分ける目を養い、選択・提案する色について理論的に説明できるようになる。

授業計画	
4月	パーソナルカラーとは？色が見える条件（光・物体・視覚）と感情効果
5月	色のしくみ（色の三属性・トーン）基本の配色方法
6月	パーソナルカラーの特徴模擬試験総まとめ
7月	パーソナルカラー検定モジュール1受験
9月	前期末試験の実施パーソナルカラー診断演習
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

授業外学習	復習としてワークブックで演習を行う
考査出題方針	講義内容及びワークブックから出題
課題・提出物	小テスト
評価の観点	色彩とパーソナルカラーの基礎である理論の理解と色の識別
評価方法	各考査の成績、小テストや課題提出、グループ学習の演習等
評価について	

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
ネイル実習	3	ヘアアート学科	1年生	選択

担当教員	職名 JNA常任本部認定講師 氏名 豊 法子
教科に係る実務経験等	ネイリスト実務経験20年以上並びに(株)モディーベーンズ（代表取締役） JNEC・JNA認定講師20年以上
使用教材	JNAジェルネイルテキスト、ネイルケアジェルネイル道具一式
副教材等	

講義の概要
ネイリストとしての基本的な技術と知識を身につけさせる 授業は、座学と実技を相モデルで実施する
授業の到達目標及びテーマ
ネイルケア、ネイルアートに関する基本的な技術、知識の習得 ジェルネイル、ジェルアートに関する基本的な技術、知識の習得 サロンワークに応用できるジェルグラデーション、フレンチネイルの習得

授業計画	
4月	ネイルの歴史、爪の各部名称について、消毒～爪のファイリングを理解させる
5月	爪の病気、衛生管理について、キューティクルクリーンを理解させる
6月	ネイルアートからカラーリングについての技法を演習
7月	日本ネイリスト検定試験センターネイリスト技能検定試験 3級 2級受験
9月	ジェルネイル理論、ワンカラー技法を理解させる
10月	ジェルネイル初級筆記試験の理解を深めさせる
11月	サロンワークにおけるジェルアートの種類を多く学ばせる
12月	ジェルネイルでの長さだしの理論と技法を理解させる
1月	ジェルグラデーションとフレンチネイルの技法を理解させる
2月	JNA中級検定試験の技術を深めさせる
3月	JNAジェルネイル検定試験中級受験

授業外学習	復習としてネイルアートの提出
考査出題方針	授業での講義内容を中心に指定された課題から出題する
課題・提出物	
評価の観点	①関心意欲、態度 ②思考、表現 ③技能 ④知識、理解 の4観点を総合的に評価する
評価方法	講義中に不定期に行う小テスト、提出物の状況、検定試験の可否等で評価する
評価について	別途指示

科 目 名	単位数	コース	学年	履修について
メイク	2	ヘアアート学科	1 年生	選択

担当教員	職名 専任講師 氏名 福永 望美
教科に係る実務経験等	JMA日本メイクアップ認定講師
使用教材	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト
副教材等	

講義の概要
実技の検定に向けて基礎から応用までの知識及び技術を身につけさせる。 授業は、テキストに基づく講義と、実技のデモンストレーションを組み合わせた形式で実施する。
授業の到達目標及びテーマ
日本メイクアップ技術検定試験 3 級、2 級に合格できるようにする。 メイクの技術だけでなく社会人に必要なコミュニケーション能力や言葉遣い、礼儀作法も身につける。

授業計画	
4 月	メイクアップの基礎知識について理解を深める。（化粧の心理効果、技術者の身だしなみ）
5 月	3 級実技試験に必要な知識と技術を把握する。（メイクアップツール、衛生管理、皮膚の基礎知識）
6 月	スキンケア、ベースメイクの知識と技術を把握する。（手順、施術方法、反復練習）
7 月	3 級受験及び2級実技試験に必要な知識と技術を把握する。（手順、施術方法、反復練習）
9 月	クレンジング～フルメイクの技術を習得する（2 級受験内容の反復練習）
10月	
11月	
12月	
1 月	
2 月	
3 月	

授業外学習	二十歳の集いメイク、福祉施設ボランティア活動、現場で役立つメイク
考査出題方針	授業での講義内容を中心に出题する。
課題・提出物	GW 及び夏期、放課後等で技術課題
評価の観点	①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③技能 ④知識・理解 の 4 観点を総合的に評価する。
評価方法	講義中に課す技術テスト
評価について	

生シラバス

科 目 名	単位数	コース	学年	履修について
香粧品化学	2	ヘアアート学科	1 年生	必修

担当教員	職名 非常勤講師 氏名 長野 慎治
教科に係る実務経験等	薬剤師実務経験20年以上
使用教材	公益社団法人日本理容美容教育センター出版（規定）
副教材等	国家試験過去問

講義の概要
国家試験出題のレベルまで、内容を習熟し、インプット学習をする 過去の国家試験問題をアウトプットし、本試験に合格できるまでの実力をつける
授業の到達目標及びテーマ
・美容師国家試験に合格程度の実力を身に付ける。 ・美容業界での実務に関連する分野の情報を獲得する（化粧品の実際の製品の特長等）

授業計画	
4 月	第1章「香粧品概論」第一章香粧品総論・第2章香粧品を使用する際の注意点
5 月	第3章香粧品の成り立ち アルコール・油性原料・界面活性剤
6 月	第3章香粧品の成り立ち 高分子化合物・色材・香料
7 月	第3章香粧品の成り立ち 防腐剤・機能性原料ほか
9 月	前期末試験の実施、第2章「香粧品各論」第1章スキンケア製品 洗浄・保湿他
10月	第1章スキンケア製品トリートメント用香粧品、第2章メイクアップ製品について
11月	第3章ヘアケアのシャンプー、コンディショナー、スタイリング剤について
12月	第3章ヘアケアのパーマ剤について
1 月	第3章ヘアケアのヘアカラー製品について、スカルプケア製品について
2 月	第1編「香粧品総論」の復習と国試過去問研究
3 月	第2編「香粧品各論」の復習と国試過去問研究

授業外学習	期末試験前に問題を配布。自宅で解くことで、復習とアウトプット力をつくる
考査出題方針	国家試験相当の問題を中心に行う。
課題・提出物	各章復習終了時に対象カ所の国家試験過去問を解く
評価の観点	国家試験の合格を最大目標にあげているため、問題の把握力・解答時間の配分・誤解答の修正を重点に置いている。
評価方法	定期期末考査の成績および出欠、授業態度
評価について	別途指示あり

科 目 名	単位数	コース	学年	履修について
美容総合技術	1	ヘアアート学科	1 年生	選択

担当教員	職名 専任講師 氏名 宅間 智子
教科に係る実務経験等	N T Tにて実務経験 1 8 年（内マナー講座インストラクター 4 年）
使用教材	美容師のための接客・接客マナー
副教材等	必要に応じてプリントを配布

講義の概要
コミュニケーション力を高め自己表現力を付け、実践的な実務能力を身につける。
授業の到達目標及びテーマ
社会生活に即応し、企業に求められる人材の育成を目指す。

授業計画	
10月	言葉遣いについて履歴書について
11月	一般的なマナーについて
12月	美容業界のまーについて
1月	就職活動のマナーについて
2月	後期末試験の実施、就職活動のマナーについて

授業外学習	単元に応じて確認テストを行い、復習を行う。
考査出題方針	授業での内容を中心に出题し、発展問題も出題する。
課題・提出物	
評価の観点	①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③技能 ④知識・理解 の 4 観点を総合的に評価する。
評価方法	講義中の演習・実技の中で、向上心を持って行うことができるか。考査の成績、提出物の状況、参加状況により評価する。
評価について	別途指示

科 目 名	単位数	学科・コース	学年	履修について
美容総合技術	1	ヘアアート学科	1 年生	選択

担当教員	職名 専任講師 氏名 福永 望美
教科に係る実務経験等	美容師実務経験 4 年以上
使用教材	日本化粧品検定認定テキスト(3～2級 1冊 ・ 1級 1冊)
副教材等	日本化粧品検定対策問題集

講義の概要
化粧品検定3～1級の受験対策)
授業の到達目標及びテーマ
1. 美容基礎知識について学ぶ
2. 過去問題を解きながら、全員合格に向け対策する

授業計画	
4 月	
5 月	
6 月	
7 月	
9 月	
10月	美容の基礎知識を学ぶ
11月	皮膚・肌について学ぶ
12月	肌の手入れ、美ボディ、美肌生活を送るには
1 月	化粧品原料と基礎知識について学ぶ
2 月	化粧品にまつわるルールを学ぶ
3 月	過去問題を基に検定受験対策を行う

授業外学習	理解度を図るため、検定の過去問題を定期的に解く
考査出題方針	講義の内容を中心に、検定過去問題を基に作成した課題から出題
課題・提出物	検定過去問題、冬期課題
評価の観点	①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③技能 ④知識・理解 の4観点を総合的に評価する。
評価方法	講義中に課す課題の検定過去問題、各考査の成績、提出物状況 学習活動参加状況等で評価する
評価について	別途指示

科 目 名	単位数	コース	学年	履修について
文化論	1	ヘアアート学科	2 年	必修

担当教員	職名 専任講師 氏名 福永 望美
教科に係る実務経験等	美容師実務経験 4 年以上
使用教材	美容師養成施設共通 テキスト
副教材等	

講義の概要
国家試験筆記試験課題のため日本のファッション文化史（西洋編）、礼装種類の知識を身につけさせる。
授業の到達目標及びテーマ
美容師国家試験筆記試験課題のため文化論について理解し合格できるように取り組む。 日本のファッション文化史（西洋編）、礼装種類について習得する。

授業計画	
4 月	ファッション文化史西洋編について理解を深める。（古代エジプト～中世ヨーロッパ）
5 月	ファッション文化史西洋編について理解を深める。（近世 1 6 世紀～近代 1 9 世紀）
6 月	ファッション文化史西洋編について理解を深める。（現代 1 9 1 0 年代～ 2 0 1 0 年）
7 月	礼装の種類（和装の礼装）
9 月	礼装の種類（洋装の礼装）
10月	
11月	
12月	
1 月	
2 月	
3 月	

授業外学習	
考査出題方針	授業での講義内容を中心に出题する。
課題・提出物	GW及び夏期課題及びレポート等
評価の観点	①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③技能 ④知識・理解 の 4 観点を総合的に評価する。
評価方法	講義中に課す小テスト、各考査の成績、提出物の状況、学習活動参加状況 等で評価する。
評価について	

科 目 名	単位数	コース	学年	履修について
文化論	1	ヘアアート学科	1 年生	必修

担当教員	職名 専任講師 氏名 福永 望美
教科に係る実務経験等	美容師実務経験 4 年以上、養成施設教員資格認定研修会修了
使用教材	美容師養成施設共通 テキスト
副教材等	

講義の概要
国家試験筆記試験課題のため日本の美容業の歴史やファッション文化史、（日本編）の知識を身につけさせる。
授業の到達目標及びテーマ
美容師国家試験筆記試験課題のため文化論について理解し合格できるように取り組む。 日本の美容業の歴史について習得する。

授業計画	
4 月	美容の語義、美容と現代社会について理解を深める。
5 月	文化史の中の美容、美容と造形要素について把握する。
6 月	日本の美容業の歴史について理解を深める。（美容業の発生、江戸・近代・現代の美容業）
7 月	ファッション文化史日本編について理解を深める。（縄文～安土桃山時代）
9 月	ファッション文化史日本編について理解を深める。（江戸時代～現代2000年以降まで）
10月	
11月	
12月	
1 月	
2 月	
3 月	

授業外学習	
考査出題方針	授業での講義内容を中心に出题する。
課題・提出物	GW及び夏期課題及びレポート等
評価の観点	①関心・意欲・態度 ②思考・判断・表現 ③技能 ④知識・理解 の 4 観点を総合的に評価する。
評価方法	講義中に課す小テスト、各考査の成績、提出物の状況、学習活動参加状況 等で評価する。
評価について	